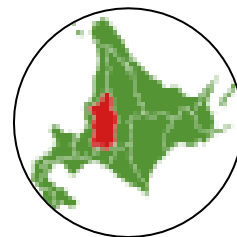


第6章 地域における主な環境保全の取組

＝【空 知】＝



1 「エコそらち」の構築に向けた環境配慮意識の普及啓発

空知総合振興局では、「北海道未来創造プラン」を推進する手立てとして、地域プロジェクトを展開しています。

平成27年度は、環境と調和した自然にやさしい「エコそらち」の構築を目指し、パネル展の開催や体験型の環境学習など環境保全意識醸成のための普及啓発に取り組みました。

また、これらの普及啓発活動を総称して「そらちエコラウンジ」事業として展開し、空知管内の市町がエコの輪でつながれるよう、効果的な取組を行うことを目指しています。

■環境月間パネル展



■オリジナルエコバッグ作り体験



2 タ張岳の高山植物保護の取組

富良野芦別道立自然公園の南端近くに位置する標高 1,668m のタ張岳は、ユウバリソウ、ユウバリコザクラ、シソバキスミレなどの希少な固有種をはじめ、北海道の山岳でみられる高山植物のほぼ全てがみられ、国の天然記念物に指定される花の名山として知られています。

空知総合振興局では、こうした高山植物の不法盗掘や絶滅が懸念される希少種の保護対策として、地元で長く保護活動を行っている「ユウバリコザクラの会」を始め関係機関・団体と協力し、登山者にパンフレットの配布を行うなど高山植物の盗掘防止キャンペーンを実施するとともに、道警とも連携し、ヘリコプターを使った上空からの監視など、盗掘防止のための監視活動を行っています。

■ユウバリコザクラ



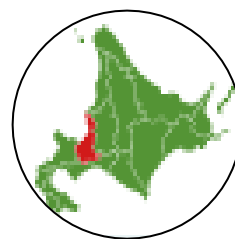
■ユウバリソウ



■道警ヘリによる上空監視



＝【石 狩】＝



1 「3R推進キャンペーン」&北海道クリーン作戦「ポイ捨てゼロの日」街頭啓発

石狩振興局では、平成27年10月8日、札幌駅・太陽の広場及び地下街アピアにおいて、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進を図ること及び空き缶、ペットボトル、たばこの吸い殻の散乱防止を目指し、道民の環境意識の高揚とモラルの向上を図るため関係団体と合同で啓発活動を行いました。

「やめようたばこ、空き缶等のポイ捨て」ののぼりをたて、3R 啓発ティッシュ、エコバッグを配布するとともにポイ捨てゼロへのご協力について声かけを行いました。

■環境忍者えこ之助 参上！



2 マルハナバチ調査隊 in サップロさとらんど

「特定外来生物」であるセイヨウオオマルハナバチが野生化し、全道に生息域を広げつつあるため、道では、ボランティアとして「セイヨウオオマルハナバチバスターズ」を募り、全道各地で防除活動を進めています。

石狩振興局管内でも、多くのセイヨウオオマルハナバチが確認されており、「バスターズ」の皆さんが防除を行っていますが、完全に防除するにはまだまだ大変な努力が必要です。

このため、より多くの皆さんに防除活動にご理解とご協力を頂こう、平成27年7月25日に、サップロさとらんどにおいて「マルハナバチ調査隊 in サップロさとらんど～外来種問題について考えよう～」を開催しました。

当日は54名の参加者が集まり、セイヨウオオマルハナバチの生態や識別方法などを学んだ後、それぞれ防虫網を使って捕獲作業を行いました。当日は300頭のセイヨウオオマルハナバチを捕獲し、参加者の皆さんに多くのセイヨウオオマルハナバチが生息していることを実感して頂きました。

また、同時に在来種の観察も行い、エゾオオマルハナバチ18頭、アカマルハナバチ1頭、エゾトラマルハナバチ7頭、ハイイロマルハナバチ21頭が観察されました。

今後も、石狩振興局では、市町村や企業・団体などの協力を得ながら、セイヨウオオマルハナバチの防除活動に取り組んでいきます。

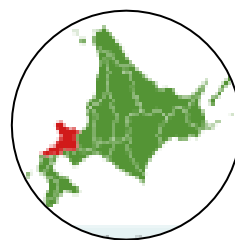
■マルハナバチの生態等の説明



■マルハナバチの捕獲を实践



＝【後 志】＝



1 尻別川水質教室

蘭越町及びNPO 法人しりべつリバーネットは、毎年、尻別川クリーン作戦を実施し、尻別川流域の清掃活動を行っています。蘭越町内の尻別川本流の河川敷等のごみ拾いを行いますが、徒歩で陸側から近づけない場所は、ラフティング体験等の営業をしている事業者の協力を得て、カヌーやラフティングボートで川側からの回収を行っています。

これまで、後志総合振興局も清掃活動に参加してきましたが、第21回目を迎えた平成27年度は、しりべつリバーネットからの依頼を受け、クリーン作戦会場にブースを設けて、「水質教室」を開催しました。

水質教室では、尻別川ほか管内4河川の河川水のCOD（化学的酸素要求量）や水生生物の種類・数、ろ過した時のろ紙の色の变化などから、水質の状態を比較しました。

参加者は、川によって生息する水生生物の種類や数が大きく異なることや、生活排水が直接流入する1河川を除き、管内の河川の水質が良好であることを確認していました。

後志総合振興局では、引き続き、清流日本一の尻別川を含む管内河川の環境保全のための取組みを進める予定です。

■ろ紙の色の变化などで水質を確認する参加者



2 CAN-ART フェスティバルでのパネル掲示等

北海製罐株式会社は、平成5年から「身近なところから楽しく広げよう！空き容器捨てない町づくり！」をスローガンに、毎年、CAN-ART フェスティバルを開催しています。平成8年からは、同社発祥の地である小樽に会場を移し、平成27年は20回目の開催となりました。

フェスティバルは9月19日から21日の3日間、小樽市観光物産プラザで開催され、後志総合振興局でも、会場の1画を提供頂き、3Rの普及啓発のパネル展示及び普及啓発物品の配布を行いました。

■3Rの普及啓発のパネル展示



北海製罐株式会社は、空き容器を利用した「ペットボトルのくらげ」のオブジェを作成・展示しており、また、フェスティバルには、アルミ缶リサイクル協会、PET ボトルリサイクル推進協議会、スチール缶リサイクル協会、千年の森プロジェクト、小樽市、小樽消費者協会、民間企業も展示等を行っており、一般市民など延べ 1,500 名の参観者でにぎわいました。

■ペットボトルのくらげのオブジェ



3 講演会「ニセコの自然とその魅力」の開催

ニセコ地域は、「ニセコ積丹小樽海岸国定公園」の一角を占め、東に秀峰羊蹄山、西から北にわたって連なるニセコ連峰、また、多くの清浄な河川があるなど豊かな自然環境に恵まれ、四季折々の美しい自然景観が魅力の地域です。

こうした自然の魅力を改めて知っていただくために、ニセコ積丹小樽海岸国定公園管理運営協議会では、地域で体験できるアクティビティの普及や国外に向けてニセコの魅力を PR されている、ロス・フィンドレー氏を講師に招いた特別講演会を開催し、約 40 名の参加がありました。

■ロス・フィンドレー氏の講演



4 鳥獣被害防止対策専門研修会・狩猟免許出前教室の開催

後志総合振興局では、平成 27 年 9 月に余市町において、管内の自治体関係者や狩猟者等を対象に「カラス類の被害防止」をテーマにした鳥獣被害防止対策専門研修会を開催しました。

カラス類については、「散弾銃の有効射程である 30m 範囲までの接近が難しいだけでなく、利口で人の意図を見抜くこと等から、銃器の利用だけでは被害防止は困難である。」と狩猟者から報告されています。このため、効果的な対策の実施には、わなは大量捕獲用、銃器は個別捕獲用等と使い分けした上で、目的や状況に応じて組み合わせて利用することが必要となります。

当日は、30 名の参加者により、情報・意見交換やわなの視察を行い、鳥獣被害対策に必要な知識・技術の習得に取り組みました。

また、専門研修会のほか、昨今、特にアライグマによる被害が目立つことから、管内の農業協同組合の依頼を受けて、平成 28 年 3 月に狩猟免許出前教室を開催し、免許の取得方法や鳥獣被害防止対策等を説明しました。35 名の参加者は、繁殖率の高いアライグマによる農業等被害の防止に向けて、早期発見・早期捕獲が重要であることに理解を示していました。

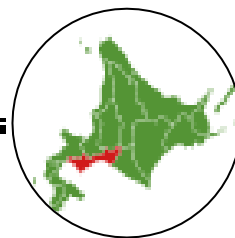
■わなで捕獲されたカラス類



■狩猟免許出前教室



＝【胆 振】＝



1 地球温暖化防止に向けた取組

胆振総合振興局では、平成 20 年 7 月に開催された「北海道洞爺湖サミット」を契機とした地球温暖化防止に向けた気運の高まりを今後も継続的なものとするため、様々な取組を行っています。

(1) 「いぶりガイアナイト 2015」の開催

平成 27 年 7 月 16 日に、むろらん広域センタービル 1 階ロビーにおいて、「いぶりガイアナイト 2015」を開催しました。

開催に先立ち、子どもや大人も楽しめるキャンドル&キャンドルホルダーづくりを開催し、ガイアナイトの写真とともに、製作したものを会場ギャラリーで展示しました。

また、当日は、お話し会やハンドベルミニコンサートを開催し、来場された地域の方々と地球環境のためにできることを考える時間を過ごしました。

そのほか、庁舎ビルや室蘭のシンボルである測量山、白鳥大橋のライトダウンも併せて行いました。

■キャンドルホルダーづくり



■ハンドベルミニコンサート



■パネル展示



(2) NPO 法人等の取組

身近な自然の復元を図る事業としてビオトープ（生物群の生息場所）づくりを進めている「NPO 法人ビオトープ・イタンキ in 室蘭」、室蘭イタンキ浜の鳴り砂を後世に残すために、浜の清掃活動や学校で子ども達に鳴り砂の大切さを教える活動している「室蘭イタンキ浜鳴り砂を守る会」など、NPO 法人や各種団体等による様々な環境保全活動が行われています。

胆振総合振興局では、これらの NPO 法人が実施する取組に対して積極的に参加しています。

(3) 「いぶりフードマイレージ・ウォームビズ」の開催

平成 27 年 4 月 23 日から 25 日までとうや・水の駅（洞爺湖町内）において、「いぶりフードマイレージ」、また、平成 27 年 12 月 14 日から 18 日までむろらん広域センタービル 1 階ロビーにおいて、「いぶりウォームビズ」を開催しました。

とうや・水の駅では、フードマイレージに関する CO₂排出削減効果等のパネルと地産地消を推奨する食材の形のカードの展示を行い、最終日には、洞爺高等学校の生徒のみなさんが自分達の地産地消レシピにより作ったクッキー等を販売しましたが、好評によりすぐに売り切れとなりました。

また、むろらん広域センタービルでは、12月の地球温暖化防止月間に併せて省エネ3Sキャンペーンやウォームビズの取組などについてのパネル展示を開催しました。

■いぶりフードマイレージ・ウォームビズ



■パネル展示



2 野生鳥獣対策

胆振管内を含む北海道西部地域のエゾシカ生息数は、平成23年度をピークに増加から減少に転じつつありますが、未だ、農林業被害や交通事故など様々な問題を引き起こしています。

このようなエゾシカによる被害を防止するため、胆振総合振興局では、胆振地域エゾシカ・ヒグマ対策連絡協議会を開催するなど、関係機関の連携により、エゾシカを始めとした有害鳥獣の捕獲体制の強化等を推進しています。

また、エゾシカの有効活用を推進するため、大谷室蘭高等学校における食育授業の一環としての「エゾシカ出前講座」（参加者数22人）の開催や、各種イベントにおけるパネルの展示の開催など、シカ肉の利用促進や普及啓発に努めています。

このほか、登別市では市内で製造されたシカ肉の缶詰やシカ肉のジンギスカンを「登別ブランド推奨品」として認定するなど、地域独自で有効活用に取り組む動きもみられています。

■大谷室蘭高校でのエゾシカ出前講座



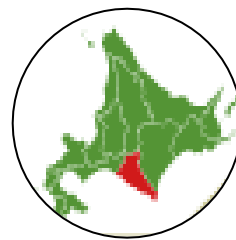
■エゾシカ有効活用パネル展示



■シカ肉缶詰



＝【日 高】＝



1 地球温暖化防止・3Rに関する取組

7月7日の北海道クールアースデイに連携し、住民の皆さんに地球温暖化防止の意識を高めていただくことを目的に、平成23年度からガイアナイトイベントを開催しています。

平成27年度は、日高振興局のエントランスホールにて、地球温暖化防止・エコライフに関するパネル展示やキャンドル等の配布を7月7日～7月13日に行いました。

また、10月の3R推進月間に連携し、10月29日には、浦河町総合文化会館で開催されたうらかわ消費生活展の会場において、交通安全・エゾシカ・男女共同参画・消費生活等のほか、3R推進・エコライフに係るパネル展示や啓発物品の配布を行いました。

■ひだかガイアナイト（パネル展示、キャンドル等配布）



■うらかわ消費生活展（パネル展示、啓発物品配布）



2 エゾシカ対策について

日高管内でも、エゾシカの農林業被害は増大しており、地域の課題となっています。

農林業被害の8割近くは牧草ですが、牧場付近での銃器によるエゾシカの捕獲は、軽種馬や和牛の誤射などの危険性があり、日高振興局では、くくりわなによる捕獲を促進しています。

わな免許取得初心者等を対象に、捕獲技術を伝える「狩猟免許出前教室」を管内2カ所で開催し、47名の方に参加いただきました。

また、平成27年11月28日には、新ひだかFood倶楽部と協力し、「エゾシカサミット」（セミナーや試食会）を開催しました。

このような取組を通じ、わな免許取得初心者の捕獲技術が向上されるとともに、エゾシカ肉を食肉として利用することにより、地域資源としての活用や廃棄物の削減が図られます。

■狩猟免許出前教室



■エゾシカサミット



3 ゼニガタアザラシ学習観察会について

近年、襟裳岬周辺を中心に準絶滅危惧種であるゼニガタアザラシの生息数が増加しており、サケの定置網やタコ漁などに深刻な漁業被害をもたらしています。

人間とゼニガタアザラシの共存を考えるため、平成 28 年3月 13 日に、えりも町の「襟裳岬・風の館」において「親子で考えよう!ゼニガタアザラシ学習観察会」を開催しました。

管内から抽選で選ばれた親子連れなど約70名の方に参加いただき、ゼニガタアザラシを観察するとともに、その生態や漁業との共存などについて理解を深めました。

■望遠鏡でアザラシを観察



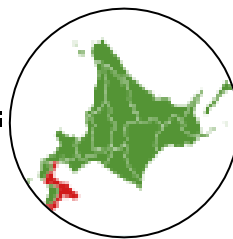
■スライドを用いて生態を説明



■説明に耳を傾ける参加者



＝【渡 島】＝



1 見る！聞く！！学ぶ！！大沼の魅力～大沼の自然環境保全とワイズユース～

平成 28 年 3 月に開業した北海道新幹線「新函館北斗駅」からも近い大沼公園地区は、美しい景観と多様な生態系で知られ、平成 24 年 4 月には大沼をはじめとした湖沼群周辺が道南では初のラムサール条約湿地に登録されました。

しかしその一方で、富栄養化による水質の悪化が見られ、特に夏場などに発生するアオコは生態系への影響や観光地としてのイメージを損なうものとなっており、湖沼環境の保全が求められています。

大沼の環境を保全してゆくためには、これまで大沼のことをあまり知る機会が無かった多くの住民の方々に関心を持ってもらうことも大切であり、渡島総合振興局、七飯町、大沼ラムサール協議会、七飯大沼国際観光コンベンション協会、自然公園財団大沼支部ほか多くの皆様に協力をいただき、平成 28 年 1 月 23 日、函館市内大型書店内にて「見る！聞く！！学ぶ！！大沼の魅力～大沼の自然環境保全とワイズユース～」と題しトークセッション、スライドショー、パネル展示などを行いました。

会場ではワカサギなど大沼地区で採れる食材を用いた製品の試食も実施し、多くの皆さんに大沼の豊かさを知っていただけました。

■大型書店でのトークセッション



■展示物を鑑賞する来場者



2 「動物ふれあいフェスティバル 2015」の開催

渡島総合振興局と市立函館保健所では、北海道獣医師会道南支部との共催で、平成 27 年 9 月 27 日、動物ふれあいフェスティバルを開催しました。来場者参加型の愛犬おもしろコンテストのほか、ペットの飼い方や健康相談、警察犬によるデモンストレーションや盲導犬との歩行体験などを行い、来場者は約 400 名にのびりました。動物とのふれあいを通じて、動物愛護やペットの適正飼育について考えるきっかけとなるイベントになりました。

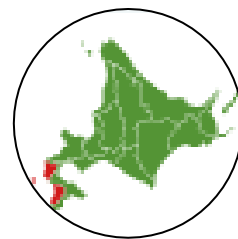
■愛犬おもしろコンテスト



■ペットの飼い方相談



＝【檜 山】＝



1 「ひやまりサイクル工作コンクール」の開催

檜山振興局では、管内の小学生を対象に、身の回りの不要品を再利用した工作を通じて「物をできるだけ長く大切に使う」「使わなくなった物は資源に回す」という意識の普及啓発を図ることで、地域のリサイクル活動及び環境行動の実践を推進することを目的に、平成 10 年から「ひやまりサイクル工作コンクール」を実施しています。

18 回目の開催となった平成 27 年度は、檜山管内の 19 校から 307 作品の応募がありました。

応募作品は 7 町 9 カ所の町民文化祭会場等で展示され、より多くの住民に啓発ができました。

■振興局で開催した入賞作品展示会



■上ノ国町で開催した展示会



2 自然環境教室の実施

自然に親しみ、環境に関する知識を普及する活動として、檜山振興局では自然環境教室を開催し、平成 27 年度は、管内の小学校において森林探索や森と川と海のつながりをテーマに実施し、16 名の参加がありました。その他、環境保全や動物愛護等に関する啓発活動を行っております。

■野外で説明を聞く参加者



■森林探索に出発



3 江差町クリーンアップ作戦の実施

江差町では、毎年、観光・行楽シーズンが本格化する前に「クリーンアップ作戦」として海岸清掃を実施しています。

この活動は、観光名所の一つである「かもめ島」をはじめとする浜辺や住み慣れた街を美しく守っていくため、町や各町内会、野球少年団の児童、地元金融機関、檜山振興局、檜山教育局など総勢 400 名が参加して 4 月 19 日に行われ、今回、地域を挙げた取り組みとして「24 時間テレビ 愛は地球を救う」の環境保全活動に取り上げられました。

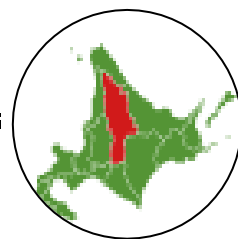
また、江差町は平成 27 年 10 月 2 日に「日本で最も美しい村」連合に加盟しており、今後とも、地域資源や環境を守り、江差町を訪れる方へのおもてなしや自分の街をきれいにするという町民一人ひとりの心がけにより、「日本で最も美しい村」運動を展開していきます。

■江差のしげっちも清掃に参加



■「かもめ島」開陽丸周辺での清掃活動





1 「エコ&セーフティドライブ・キャンペーン in あさひかわ」の実施

道は、地球温暖化防止に向けた取組の一環として、環境に配慮した運転をすることで CO₂ 排出量を減らすとともに、交通安全にもつながる「エコ&セーフティドライブ」の普及を進めています。

上川総合振興局では、平成 27 年 8 月 22 日、旭川地場産業振興センターで開催されたイベント「来て！見て！乗って！トラックふれあいフェスティバル」（主催：（一社）旭川地区トラック協会）に、エコ&セーフティドライブの啓発ブースを出展しました。

ブースでは、エコ&セーフティドライブのパネルやポスターを掲示するとともに、パンフレットやチラシも配布しました。また、燃料電池自動車（FCV）が注目される中、水素社会の実現に向けた取組を紹介するため、水素と酸素の化学反応を利用して発電を行う環境にやさしい燃料電池を使った模型自動車の走行実験を行い、来場者の方々は興味津々に実験の様子を観察していました。

併せて、夜光反射材を設置した黒色テント内でライトを点灯し、夜光反射材の効果を体験していただくコーナーや、エコバッグづくり・夜光反射材のお絵かきコーナーを設置し、多くの家族連れで賑わいました。

さらに、環境忍者「えこ之助」の着ぐるみを活用した PR を行い、えこ之助と子供たちが積極的に交流する様子も見られるなど、幅広い世代の来場者の方々にエコ&セーフティドライブや水素社会についての理解を深めていただくことができました。

■えこ之助とふれあう来場者



■燃料電池を使った模型自動車の走行実験



2 「キャンドルナイト 2015」への出展

夏至を控えた平成 27 年 6 月 21 日に電気を消してキャンドルを灯し、環境について考えるきっかけを提供することを目的に、NPO 法人「旭川 NPO サポートセンター」が旭川市市民活動交流センター CoCoDe で開催した「キャンドルナイト 2015」に、上川総合振興局もブースを出展しました。

ブースでは 3R 推進などのティッシュを配布したほか、蜜ろうキャンドルやエコバッグ作りといった体験教室を行い、多くの家族連れで賑わいました。さらに、天体観測なども実施され、来場者

の方々は有意義な一夜を過ごしました。

■蜜ろうキャンドルやエコバッグ作りを体験



3 大雪山国立公園における協働による歩道の補修 ～たまには山に恩返し～

大雪山国立公園の姿見の池周辺の歩道では、旭岳の噴火口や姿見の池や夫婦沼、キバナシャクナゲやエゾノツガザクラなどの高山植物等を、ロープウェイの利用により間近に観察できるため、登山者だけではなく、国内はもとより海外からも多くの観光客が訪れる道内有数の観光名所となっています。

一方、利用者の増加や降雨等の自然現象により登山道の浸食や崩壊が進んでいるため、上川総合振興局では、これらに対応するとともに環境保全意識の向上や利用時の事故防止等を目的に、平成27年9月6日、地元の山岳ガイド会社と共催で「登山道保全技術セミナー～たまには山に恩返し～」を開催しました。

当日は一般登山者のほか、山岳会等の関係者、関係行政機関の職員総勢22名により、登山道の段差解消などの補修作業を行いました。

今回の補修活動は、一般登山者のほか山岳関係者が一緒に参加・作業をすることにより、参加者全体の環境保全意識の向上に繋がり、また、山岳事故の未然防止にも寄与できました。

今後もこうした官民協働による本セミナーを継続していくことにより、山岳環境保全意識の向上に努めていきます。

■補修作業の状況



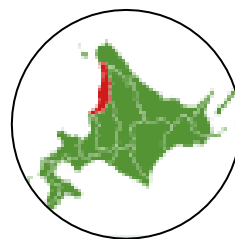
■補修前



■補修後



＝【留 萌】＝



1 増毛山道再生の取組

暑寒別天売焼尻国定公園の急峻な断崖の増毛海岸を貫く国道 231 号は、昭和 56 年に開通しましたが、かつて、交通の難所とされたこの区間を迂回すべく、江戸幕府の命を受け、増毛の漁場を請け負っていた商人「伊達林右衛門」により安政 4 年(1857)に開削されたのが増毛山道です。

この山道は、昭和 16 年の駅通廃止から使われなくなり、いつしか草木に埋もれていましたが、平成 21 年から留萌振興局の取り組みとして NPO 法人増毛山道の会とその再生作業に着手し、平成 27 年に雄冬山直下までの開削をもって、留萌側の再生が完了しました。

留萌側の増毛山道再生が完了した平成 27 年度は、増毛山道普及拡大事業として、より多くの道民に周知すべく、平成 28 年 1 月 10 日に札幌駅前通地下歩行空間において、「増毛山道フォーラム 2016」と銘打ってセミナーやパネル展示を開催しました。

また、毎年開催している NPO 法人による増毛山道体験トレッキングにより、国定公園内の豊かな自然、武好駅通跡地、当時の電信柱、橋の石積み、仏様の台座、更に、遠く三河の花崗岩で造られた水準点等も見ることができます。

■札幌駅前通地下 憩いの空間における増毛山道パネル展示



■札幌駅前通地下 北 3 条交差点広場西におけるセミナー開催状況



2 3Rなどの普及啓発（フリーマーケット等の開催）

留萌振興局では、3Rや地球温暖化防止の啓発事業として、フリーマーケット（留萌リサイクル運動の会と共催）をはじめ様々なイベントなどを開催しました。

(1)6 月（環境月間）開催イベント

環境月間である 6 月は、地域住民の皆様に環境保全への関心を高めていただくことを目的として、平成 27 年 6 月 21 日に留萌合同庁舎の駐車場を開放し、29 店舗が出店するフリーマーケットと、庁舎内での 3R パネル展を併せて実施しました。

来場者は、出店者も含め約 500 人で、熱心に各店舗を回り、品定めする姿が見られました。

■フリーマーケット



(2) 10月（3R推進月間）開催イベント

3R推進月間である10月は、地域住民の皆様に3Rへの理解と協力を目的として、平成27年10月25日に留萌合同庁舎の講堂を会場にしてフリーマーケットを開催しました。

また、ドライブシミュレータを用いたエコドライブ体験ブースを設置したところ、来場者到大変好評でした。

これらの事業は、留萌振興局の独自事業である「よりみちの駅フェスタ2015」の一事業として実施しており、来場者は、他の事業も含めて約470人でした。

■エコドライブ体験



(3) 12月（地球温暖化防止月間）開催イベント

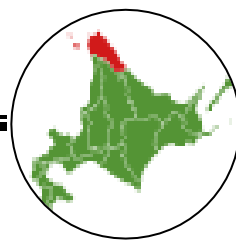
地球温暖化防止月間である12月は、地域住民の皆様に地球温暖化に関する理解と関心を深めていただくことをテーマとして、平成27年12月12日に留萌合同庁舎の講堂を会場に、フリーマーケットと、「蜜ろうキャンドルづくり」を併せて実施しました。

道の「地球温暖化防止活動推進員」の手ほどきを受け、キャンドルづくりを楽しむ子供たちの姿が見られました。本事業は、留萌振興局の独自事業である「よりみちの駅クリスマス」の一事業として実施しており、来場者は他の事業も含め、約480名でした。

■蜜ろうキャンドルづくり



＝【宗 谷】＝



1 高山植物盗掘防止の取組

礼文島は、標高が低い場所でもレブンアツモリソウなどの希少な高山植物を身近に観察できることから、植物の開花シーズンになると毎年多くの観光客が訪れます。

宗谷総合振興局では、希少な高山植物を守るため、関係機関と連携しながら、毎年6月と7月の2ヶ月間、「高山植物盗掘防止キャンペーン」を実施し、礼文島を訪れる観光客に対し、リーフレットの配布などを行うほか、振興局をはじめとする関係機関の職員や道の生物多様性保護監視員による盗掘監視パトロールを実施しています。

礼文町では、平成24年3月に「礼文町生物多様性地域戦略」を策定し、「礼文島リボンプロジェクト」として町民はもとより、趣旨に賛同していただける礼文島を訪れるすべての方を対象に活動支援の証として記念バッジを販売し、その益金を礼文島の自然のために有効に活用しています。

■レブンアツモリソウ



■レブンウスユキソウ



■レブンコザクラ



2 自然観察会

北オホーツク道立自然公園の中心地であるベニヤ原生花園では、高山性の植物や湿地特有の植物、森林植物、海岸植物などの多様な自然環境の移り変わりを容易に観察することができます。

こうした優れた自然環境への理解や地域における自然環境保全の意識向上を目的として、宗谷総合振興局では、平成27年8月23日、ベニヤ原生花園でジュニアガイド（小学生）による自然観察会を開催しました。

自然観察会では、ジュニアガイドが参加者に対して、ハマナスやエゾカワラナデシコなど合計12種の植物の

■自然観察会終了後の参加者集合



名前や特徴を説明しました。

今後も地域の自然環境への興味関心や環境保全に対する意識向上のため、継続して地域へ働きかけていく予定です。

3 利尻礼文サロベツ国立公園における歩道の協働管理

宗谷管内に位置する利尻礼文サロベツ国立公園は、昭和49年に指定された日本最北の国立公園で、平成26年度に指定40周年を迎えました。公園区域は24,166haで、稚内市、豊富町、幌延町、礼文町、利尻町、利尻富士町の1市5町にまたがり、抜海・稚咲内海岸、利尻・礼文の両島及びサロベツ原野を含んでいます。公園内には、洋上にそびえる独立峰利尻山（標高1,719m）をはじめ、高山植物のお花畑が広がる礼文島や日本最大級の高層湿原を有するサロベツ湿原、南北約40kmにわたって続く海岸砂丘など変化に富む豊かな景観が広がっており、公園利用者がこうした景観等を楽しむための自然歩道が整備されています。

平成27年9月26日には、礼文島で「礼文島の自然観光を育てる」をテーマに礼文島環境フォーラム2015が開催され、午前のプログラムでは、自然公園施設の協働管理の一環として、関係行政機関や町民、一般観光客等の参加者により、前年の豪雨災害の影響で通行止めとなっていた歩道の仮復旧作業を実施しました。

また、午後のプログラムでは、自然観光に関する国内外の事例についての基調講演や「礼文島の個性を活かす自然観光とは何か」をテーマにパネルディスカッションが行われ、約40人が参加しました。

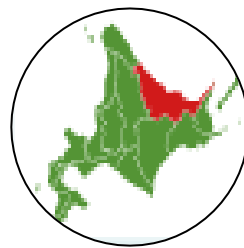
■参加者による仮復旧に向けた土のう作り



■桃岩を背景に立入禁止の看板を撤去する参加者



＝【オホーツク】＝



1 クールオホーツク

オホーツク地域では、エリアカラーの「オホーツクブルー」（近い色を含む）を家庭や職場に取り入れた涼感の演出や、省エネ活動によるエコライフへの転換など、地球温暖化防止活動を地域活性化につなげる「クールオホーツク」の取組を展開しています。

平成 27 年度は、7 月 1 日から 8 月 31 日までの 2 ヶ月間を実施期間とし、期間中の毎週水曜日を「クールオホーツクの日」としてオホーツクブルーを地域のブランド色として確立させ、エコでクールなライフスタイルへの転換を推進しています。

また、クールオホーツク賛同企業・団体登録制度を創設し、管内 76 の企業・団体に登録いただき、クールオホーツクの取組に積極的に参加いただきました。

オホーツク総合振興局では、実施期間に先立って、この取組を幅広く PR するため、クールオホーツク・キックオフイベントを開催し、紙芝居の上演や竹とんぼの作成などを行い、約 100 名の方々にご参加いただきました。

なお、オホーツク総合振興局有志により、クールオホーツク啓発用ポロシャツ（通称：オホ・シャツ）を作成し、積極的に着用しました。

■オホ・シャツを着用したクールオホーツクの啓発活動



2 オホーツク動物愛護週間イベント

9 月の動物愛護週間行事の一環として、地元獣医師会、ボランティア、ペット関連業者、動物愛護推進員とともに動物愛護週間イベントを開催しました。

保護犬猫の譲渡会、獣医師会による健康相談、トリミングスクールによる犬の無料お手入れのほか、ミニ動物園、セラピー犬とのふれあいなどを行いました。また、狂犬病に関するクイズやパネル展などにより、動物の愛護や適正飼育に関する PR を行いました。

譲渡会では、15 匹の猫が新しい飼い主に引き取られ、ミニ動物園では、ヘビやタカ、トカゲなどの珍しい動物が大人気でした。ペット連れの来場者は、健康相談やお手入れコーナーで具体的な飼育アドバイスを受けるなど、地域の方の動物愛護に対する理解を得るイベントになりました。

■譲渡会の様子



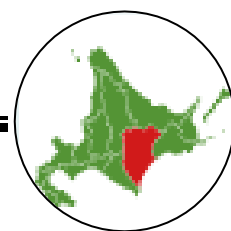
■ミニ動物園



■セラピー犬とのふれあい



＝【十 勝】＝



1 「もっとエコなとかちづくり」～とかち地域資源活用・価値創造事業～

(1) 低炭素型ライフスタイルの定着・促進を目指した取組

十勝総合振興局では、平成20年度から「もっとエコなとかちづくり」を合言葉に環境保全の取組を行っています。

平成27年度には、十勝管内で開催された環境関連イベントにおいて、環境やエネルギーを専門とするコンサルタント会社が社会貢献活動の一環として講師を引き受けてくださり、「水循環」や「電気」をテーマとして、実験を通して環境保全や再生可能エネルギーについて学ぶ環境実験教室を実施するなど、低炭素型ライフスタイルの定着・促進へ向けた取組を行っています。また、イベントの実施により排出される二酸化炭素は、十勝産クレジットの購入によりカーボン・オフセットすることで埋め合わせるよう努めています。

■環境実験教室



(2) 「とかちの環境学習ツアー」の実施

十勝管内在住の親子を対象とした環境学習バスツアーを実施しました。

27名の参加者は、ビーチコーミング（海岸漂着物の収集）を通して、漂着物が生態系に与える影響や自然環境の適正利用等について学びました。

また、木質バイオマスボイラーを見学し、身近なものが再生可能エネルギーとして利用されている現状を目にし、利活用の取組への理解を深めました。

■ビーチコーミング



2 北海道地球温暖化防止活動推進員及び環境保全団体等との連携

様々なストレスを抱える現代社会では、環境の変化が心の不調をもたらし、日々の生活に支障をきたす場合も少なくないと言われています。心の健康と地球環境のつながりから、新しい暮らし方を考える機会とすることを目的として、「地球温暖化防止月間」を目前とした11月中旬に、北海道地球温暖化防止活動推進員が主体となり、環境保全団体等と協働で、地球温暖化防止セミナーを実施しました。

■地球温暖化防止セミナー



3 動物ふれあいフェスティバル、動物愛護パネル展の開催

十勝獣医師会、おびひろ動物園、帯広畜産大学、北海道盲導犬協会などの協力を得て、動物愛護週間行事として2つのイベントを開催しました。

獣医師体験、盲導犬ふれあい体験、保健所犬舎見学、出張おびひろ動物園、動物骨格標本展示などの体験型イベントや動物愛護パネル展を通じて、動物愛護や適正な飼養に関する啓発を行いました。

■獣医師体験



■盲導犬ふれあい体験



4 安全狩猟及び狩猟技術向上講習会の開催

狩猟の経験の浅い銃猟免許ハンターを対象にして、安全狩猟の徹底と捕獲技術の向上についてフィールドで習得し、狩猟の楽しさや奥深さを体感し、将来的には地域の鳥獣害対策への参加や捕獲技術を伝承できる人材の確保を目的に、猟友十勝連絡協議会との共催により講習会を開催しました。

17名の参加者により、1日目に射撃場での実射練習、安全狩猟と食用上の衛生管理の講義、2日目に現地でのエゾシカ銃猟実習と捕獲個体の解体処理実習を行い、理解を深めていただきました。

■射撃場での実射練習



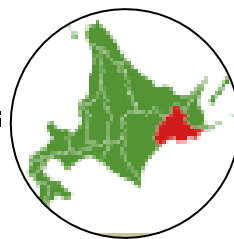
■エゾシカ銃猟実習



■捕獲物解体処理実習



＝【釧 路】＝



1 「くしろ消費者まつり」会場における環境啓発の実施

釧路市では毎年2月に釧路消費者協会主催で「くしろ消費者まつり」が開催されています。

昨年度は平成28年2月6・7日の2日間にわたって開催され、延べ1万7千人の来客で賑わいました。

釧路総合振興局は、1月の「道民環境の日」及び2月の「省エネルギー月間」に合わせて釧路市と協同で環境啓発ブースを出展し、地球温暖化やエコドライブに関するパネルの展示の他リサイクルグッズを紹介するなど、来場者の方々に環境保全の普及啓発を行いました。

特に「エコドライブシュミレーター」による省エネドライブを体感できるコーナーはゲーム感覚で楽しめることから、大人も子ども也大いに盛り上がっていました。

■エコドライブシュミレーターを体験



2 2015 動物愛護フェスティバル in くしろ

動物愛護週間の行事として、釧路フィッシャーマンズワーフMOOで10月3日に開催しました。

「動物園獣医さんのないしょ話」をタイトルに、釧路市動物園の藤本園長補佐から、特別天然記念物タンチョウ等の救護活動の苦労や、展示動物の個性豊かな習性をユーモラスに語っていただきました。

また、犬猫の保護活動を実践する「釧路アニマルレスキューRed Heart」の皆さんによる寸劇風の講演やスライドショーでは、思わず涙ぐむ参加者の方もいらっしゃいました。

併せて、ペットの無料相談や犬猫の譲渡予約会も開かれ、延べ200名の来場者で会場は賑わいを見せていました。

■動物愛護フェスティバル



3 タンチョウ越冬分布調査

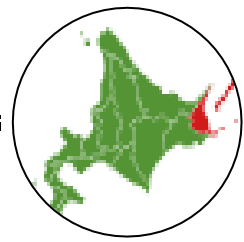
環境省の委託を受け北海道が実施しているタンチョウ越冬分布調査は、タンチョウの保護増殖を図る上での重要なデータになるだけでなく、子どもたちの環境教育にも役立っています。

平成27年12月には、地元の小学生81名（13校）中学生102名（7校）の合わせて183名で調査し、釧路管内で687羽のタンチョウの生息が確認されました。

■越冬するタンチョウ



＝【根 室】＝



1 ねむろガイアナイト 2015

地球のことや未来のことを考えることにより、地球温暖化対策を身近なものとして考えてもらおうと、平成 27 年 7 月 2 日にねむろガイアナイトを開催しました。

ジュニア・アンサンブル・ねむろ、ストリングスによる弦楽コンサートに加え、根室市歴史と自然の資料館学芸員から「森はなぜウンチと落ち葉でいっぱいにならないのか？」と題して、森の中に落ちているヒグマなどのふんや落ち葉が微生物や菌などによって分解され、森の栄養になるまでの循環の仕組みについて説明、約 70 名が参加しました。

■ストリングスによる弦楽コンサート



■自然の資料館学芸員の説明



2 世界自然遺産 10 周年 らうすの海いつまでもプロジェクト～みんなで守ろう羅臼の海～

古くから漁業で繁栄し、現在は観光分野でも多くの恩恵を受けている羅臼の豊かな海を後世に残していく活動として、平成 26 年度から北海道 e-水プロジェクトの助成を受け、羅臼町の地域住民や観光事業者はもちろん、多様な関係団体と全国各地の羅臼ファンが一体となり「らうすの海いつまでも」を合言葉に、環境保全活動と普及啓発活動を展開してきました。

平成 27 年度は、前年度に引き続き実施した地域と全国各地の羅臼ファンが一体となった環境保全活動と、羅臼の海の豊かさとそれらを守り伝える活動をしている地域の人達に触れあっていただこうと JTB 北海道釧路支店様の協力をいただきながら企画したモニターツアーの 2 本の柱でプロジェクトに取り組みました。

世界自然遺産登録 10 周年記念日である平成 27 年 7 月 17 日に開催した環境保全活動では、平日の開催にも

■7月17日に開催した環境保全活動



関わらず町内外から 80 名近くの多くの参加者にお集まりいただきました。

遠くは福岡県や宮崎県からの参加や、御家族で参加いただいた町民の方など 2 回目の開催となった本プロジェクトは、『らうすの海いつまでも』というキャッチフレーズとともに広く浸透してきたと感じています。

今後も、世界自然遺産知床の町、羅臼として、地域住民と全国各地の羅臼ファンが一体となり、「らうすの海いつまでもプロジェクト」について継続的に取り組んでいきます。